

PFI手法による奈良県文化会館の管理及び運営（奈良県文化会館公共施設等運営事業）について

1. 経緯

現在、奈良県文化会館は「地域ぐるみの音楽活動拠点」「ジュニアオーケストラの活動拠点」「Japan National Orchestra 株式会社との連携協定に基づく音楽活動の展開」などを背景として、「クラシック音楽を中心とした質の高い舞台芸術を鑑賞・創造・発信」できる、「音楽系を軸とした多彩な舞台芸術の殿堂」を目指し整備している。

令和9年度のリニューアルオープンに向け、上記目的を達成するための最適なスキームを検討してきたところ、PFI法に基づく公共施設等運営権（コンセッション）方式による運営がより効果的であり、民間事業者の参画可能性が十分に認められることから、コンセッション事業の導入を行うこととした。

2. 事業の基本的な考え方

- ・対象の施設：奈良県文化会館
- ・施設の立地：奈良市登大路町6-2
- ・事業期間：2027年度から2042年度（15年を想定）
ただし、一定の条件の下事業期間の延長も可能とする想定
- ・業務範囲：①開館準備業務
②統括管理業務
③運営業務
④維持管理業務
⑤任意事業
- ・利用料金：条例に従って事業者が設定し、自らの収入として徴収すること
- ・費用負担：維持管理及び運営に係る費用について、県が定める上限額範囲内で事業者が提案、実施契約に定める範囲内の費用を県が負担（混合型）
- ・収益：レベニューシェア
（予定した収入もしくは利益からの増加分の一部を県に分配）を想定
- ・選定方式：公募型プロポーザル方式による選定を想定
- ・応募者構成：特別目的会社（SPC）の設立を想定

3. 今後のスケジュール

- | | | | |
|------------|--------------|---------|------------|
| 2025年10月以降 | ・実施方針の策定 | ・特定事業選定 | ・運営事業者募集開始 |
| 2026年度 | ・提案書審査、事業者決定 | ・実施契約締結 | ・運営権設定 |
| 2027年度 | ・公共施設運営事業開始 | | |



PFI手法による奈良県文化会館の管理及び運営（奈良県文化会館公共施設等運営事業）について

4. 奈良県文化会館の強み 「奈良公園」に隣接するホール

「世界遺産に囲まれた、文化都市『奈良』の中心地にあるコンサートホール」

- ・近鉄奈良駅から 徒歩約5分 奈良公園の玄関口
- ・JR奈良駅から 市内循環バスに乗車し約10分「県庁前」バス停下車後 徒歩約2分
- ・周辺には、世界遺産に登録された社寺や奈良国立博物館があり、文化ゾーンを形成



5. 奈良県文化会館の強み 芸術監督「反田 恭平 氏」

世界的ピアニスト 反田 恭平氏が芸術監督を務める

- ・2016年のデビューでサントリーホール2000席が完売
- ・全国ツアーでも各地売場が続き「日本一チケットが取れない」と話題を集める
- ・2021年にはショパン国際ピアノコンクールで日本人最高位タイの2位入賞
- ・2021年に奈良県に株式会社であるオーケストラ「Japan National Orchestra（JNO）」を設立
⇒ 奈良を拠点にアウトリーチ活動や、奈良の文化活動の発展に寄与している。



出典：反田恭平氏オフィシャルサイト

6. 整備概要

音楽系を軸とした多彩な舞台芸術の殿堂として整備

（主な整備内容）

- 文化会館1階の奥に、約350席の本格的な**音楽小ホール**を新設
- 上記に伴い2階に、新たに**音楽練習室**や**練習スタジオ**を整備
- 中庭の屋内化により文化会館動線を中心となる**アトリウム**を整備

R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	整備工事			
			開館準備	



音楽小ホール（新設）



音楽練習室（新設）